

米国留学前ソーシャルスキル学習セッション受講生の留学生活 —対人行動と対人関係を中心に—

Lifestyle of Japanese Students in the U.S. who had taken the American Social Skills Learning Session before Their Stay in the U.S.: Focusing on Interpersonal Behavior and Relationships

○田中共子（岡山大学）Tomoko Tanaka(Okayama University)

高濱 愛（一橋大学）Ai Takahama(Hitotsubashi University)

はじめに

米国留学を予定している日本人大学生に、渡航前にアメリカン・ソーシャルスキルの学習セッションを受講してもらい、続いて渡航後や帰国後の様子を、縦断的パラダイムを用いて調査する一連の研究を展開している。今回は4人の留学生を対象とし、日本でセッション前・セッション後、留学先で留学後期、そして再び日本で帰国後3か月・帰国後9か月の時点の調査を行ったなかから、留学先での様子を取り上げる。セッション時の様子は高濱・田中（印刷中）にあるが、アメリカで有用な対人行動に関する認知と行動が学ばれていた。セッションに参加していないアメリカ人に評価してもらくと、参加者のセッション中のパフォーマンスは、完璧ではなくとも向上していると認識されていた（田中・高濱，印刷中）。今回は特に、学んだスキルが留学の現実場面の中でどのように般化していき、対人的な適応が進んでいったかに焦点を当てる。

方法

調査対象者 高濱・田中（2010）で報告されている留学前アメリカン・ソーシャルスキル学習セッションに参加した、女子大学生4名（S11、S12、S13、S14）。彼女たちは全員、日本のX大学の文系学部にも所属しており、セッション受講の約1か月後に、アメリカの同じ大学に9か月の短期交換留学に行った。

手続き 留学前セッションに参加した4名の学生について、第一筆者がアメリカの留学先へ訪ねて行き、面接法と質問紙法を併用した調査を実施して、量的・質的手法を併用した事例的検討を試みた。訪問時期は彼らの渡航後8ヶ月経過時点であり、留学後期にあたる。先の調査で、同様のセッションを受講した学生の留学中の様子を調べているが、その際に用いた留学生活に関する質問紙（高濱・田中，2009）を渡して記入してもらい、書き込まれたものをみながら、内容をさらに詳しく尋ねる1時間ほどの半構造化面接を行った。対話の焦点は、セッションで学習したスキルの使用状況や使用のエピソードと、留学中の対人関係であり、どのように行動して人との関

係を作り付き合ってきたかを語ってもらった。加えて留学生生活を総括してどうとらえているかも、振り返ってもらった。対話は調査者と一対一で行われ、了解を得て録音された。

結果

それぞれの語りを、以下に要約して示す。

S11：現在はアメリカ人と同室の寮に住んでいる。留学生活はまもなく終わるが、一言で言うと楽しかった。日本では味わえない楽しみに満ちており、多様な人との出会いが刺激的で楽しい。日本人の留学仲間とは愚痴を言い合ったり困難を共有したりした。日本人の先輩には、いろいろなことを教えてもらい、アメリカ人を紹介してもらったりした。日本語関係のボランティアを自分から問い合わせたが、それが縁でアメリカ人や他の外国人にも友人が広がった。日本に興味のある人とは、友達になりやすい。他国人で仲良くなった人が、仲間や家族の集まりに入れてくれることもある。アメリカ人のルームメイトには、英語の発音などを教えてもらった。習ったスキルのことは、関連する出来事があったときに思い出した。笑顔で色々なことを乗り切った。交渉や主張は、最初の頃から使った。後から、こうすればよかったかな、と思出すこともある。友達作りは難しい。最初はイベントで知り合うことが多かった。総じて広く浅くの付き合いで、深くなりにくいことは辛かった。積極的に行くことが大事だと思う。積極的な気持ちがあれば動いてくれる。何回も試みることは大事だと思う。

S12：現在はネイティブ用の寮に住んでいる。留学生活は一言で言うと、濃かった。期間を延長したい。最初は言葉が通じなくてネイティブと話すのは怖かったし、授業には困難もあった。でもいろいろな国の人に会えて楽しい。皆友達を作りがあっており、留学生の友人はすぐできる。これからも、いろいろな国の人と仲良くなりたい。留学のコツは友達作りだ。自分の友人関係は充実していた。習ったスキルはすごく使えた。特に留学初期の頃役立った。先生と交渉したり、仲良くなったりできた。無駄話も大事だと思う。自分からアプローチしたらその分プラスになるけれど、しなかったらゼロだ。ネイティブは、留学生で分からないから教えてという、よく助けてくれて優しいし、そこから話せる関係になる。ジョークは結構笑ってもらえた。留学期間の長い日本人には相当助けてもらった。ネイティブのスピーキングパートナーも紹介してもらった。日本人の留学仲間とは愚痴を言って支え合った。他国人の留学生とは、買い物など実用面で助けを借りながら仲良くなり、相手の国の言葉も勉強している。アメリカ人学生は授業後にさっと帰り、広く浅く付き合う人が多いようだ。でもよく一緒にいる人も、たまに話す人も必要だ。

S13：他国人の学生とルームシェアするアパートに住んでいる。他国人で何でも話せる友人が複数できた。友達がいなかったら生きていけなかったと思うほど、人に助けられた。留学で得た

ものは人とのつながり。留学生活は毎日がハプニングで、楽しい。スキル学習をしておくことは、事前に免疫を得ておくようなものだ。オープンにする態度とか、先生には頼みごとをしてもよい等、言葉ではない部分の学習が役に立った。先生との交渉方法は実際に使えたり、いろんな頼みごと、言ってみたら案外大丈夫だと分かった。ルームメイトに言いたい事がある時用に、上手く不満を言う方法も教わりたい。学外で会った、日本に興味のあるネイティブのスピーキングパートナーとは、日本語と英語を交換教授している。日本の留学仲間はよく話を聞いてくれて、助けてくれる。友達作りは、年齢とか国籍とか関係なく、とにかく話してみる。自己紹介をして、留学生だから分からないことがあると話しかけ、目立つことをして自分を印象づける。自分は狭く深くより、いろいろと広く付き合う方だと思う。アメリカにいても自分はあまり変わらず、特に違和感はなかった。

S14: ネイティブのための寮に、ネイティブのルームメイトと住んでいる。留学は発見が多く、楽しかった。留学は、いろんな国の人に出会えた貴重な機会だ。日本の良さも分かり、好きになったしもっと知りたい。人間どこでも同じで、みな一生懸命生きてると分かった。言葉が分からなくて、ディスカッションの授業では辛いこともあった。他の外国人のいい友人ができて、外国語を教えてもらったりした。元気づけてくれる、ネイティブの友人もいる。ただし寮生の回転は早いのですぐいなくなり、途中から友達作りが面倒になった。でも留学のこつは人と関わること。引きこもると寂しいし、一人で時間をもてあますと余計なことを考えてしまう。今はボランティアをしているけれど、もっと早くから始めれば良かったと思う。スキル学習は、先生との話し方や交渉がとても役立った。先生に相談に行くことと意欲をアピールすることができる。自分のことをよく話すというのも、大事だと納得できた。授業の雰囲気によっては友達作りは難しいが、その週にやったことを聞きあえる程度の友達はできた。主張することは、相当がんばった。日本人留学生からは、勉強や語学でいい刺激を受けたし、家族みたいに癒し合いながら助け合った。自分は広く浅くより、狭く深く付き合うタイプだと思う。

考察

1年近くに及ぶ留学生活で、彼女らは友人を作ろうと初期から積極的に努力しており、スキル学習で会得した考え方や行動のパターンを適宜取り入れていた。この学習は、特に初期の社会的適応場面での行動に役立つ。セッションによるスキル学習は、アメリカで求められる対人関係の規範を知る機会として機能しており、アメリカで人付き合いをする際、何をどうするのかという指針が得られていた。教員との関係性構築の手続きは、特にその有用性が高く評価されていた。ハンディを持っているが意欲はあると示し、必要な配慮を受けることは、限られた留学期間の学

びの質を高める効果的な方策といえよう。アメリカでの要求水準が日本よりかなり高いと考えられる主張行動は、渡航後にさらに磨かれている。笑顔やジョーク、自己開示、小さなおしゃべりなども使われ、効果が確認されている。文化行動は試行錯誤で容易に察知・獲得できるものばかりではないので、背景を理解した上で、文脈に応じた行動方針を定め、適した振る舞い方で自分の意図を的確に伝える練習は、関係性形成の滑り出しを支えて、留学生生活を助けたと考えられる。

ネイティブの友人は、日本に興味を持つ人の場合と、同室など何らかの共通点を持つ人の場合がある。彼らとの深い関係性の構築は比較的難しいが、ホストを含む多様な人とふれあう肯定的な関係性は、能動的な姿勢を持てば開始できると捉えられている。広範囲の対人関係の魅力と可能性に気づくことは、彼女らの視野の広がりにも貢献している。ホストとの関係は少しずつ進み社会的な適応に寄与していくが、一方で日本人の留学仲間とは身内感覚で密接に助け合い、他国の留学生とは留学生独特の困難やハンディを共有しつつ関係を育み、心理的な適応が支えられている。多様なソーシャルサポートを手に入れており、一様に留学を楽しかったと述べる点では、彼女らはいわゆる留学の「エンジョイメントグループ」(Takahamaら, 2008)に属すると考えられる。彼女らは留学の成果として人との出会いを挙げ、留学のこつに友人作りを挙げ、留学の意義を人との出会いに見いだしており、対人関係は留学生活の重要な部分を占めていることが分かる。

引用文献

Takahama, A., Nishimura, Y. & Tanaka, T. (2008) "The influence of social skills on getting social support for adolescents during study abroad: A case study of Japanese short-term exchange students" 『留学生交流・指導研究』 (*Journal of International Student Advisors and Educator*) Vol.10, pp.69-84.

高濱愛・田中共子(2009)「在米日本人留学生による滞米中のソーシャルスキル使用—留学前ソーシャルスキル学習の受講者と非受講者の場合—」『留学生交流・指導研究』11、 pp.107-117.

高濱愛・田中共子(2010)「米国留学予定の日本人学生を対象としたソーシャルスキル学習」『一橋大学国際教育センター紀要』創刊号、 pp. 67-76.

高濱愛・田中共子「米国留学準備を目的とした短期集中型アメリカン・ソーシャルスキル学習セッションの記録(1)—自己紹介と対人関係の開始に焦点を当てて—」『一橋大学国際教育センター紀要』(印刷中)

田中共子・高濱愛「アメリカン・ソーシャルスキル学習における演技の他者評価：学習者のパフォーマンスに対するネイティブのコメントから」『岡山大学文学部紀要』(印刷中)

謝辞 本研究は、平成19年～20年度科学研究費補助金(萌芽研究19653099 代表 高濱 愛)の助成を受けた。